

アジア系アメリカ人をめぐるディスコースと 新型コロナウイルス流行に伴うアジア人排斥 —日系アメリカ人と在米日本人の事例から—

木場安莉沙(神戸市外国語大学)

1. はじめに

2019年12月に中国湖北省の武漢にて初の症例が確認された新型コロナウイルス感染症は、本邦においては2020年1月に国内初の感染者が確認され、2021年1月7日現在における感染者数は累計26万7679人に及ぶ¹。アメリカ合衆国では2021年1月6日時点において感染者数が2千96万人以上、死者数が35万6千人以上にも上り²、感染症と既存の経済格差や人種差別との関連性も指摘されている。特に、中国系をはじめとしたアジア系に対するヘイトクライムやヘイトスピーチの件数は、トランプ元大統領による“China virus” “Kung flu”といった差別的な語の使用とも関連して増加していると言われている(Jeung, 2020)。新型コロナウイルス感染症の流行に伴うアジア系へのヘイトクライムの急増を受けて発足したStop AAPI Hateによると、2020年3月から6月の3か月間の間に報告されたヘイトクライム被害件数はカリフォルニアだけで800件に及ぶ。FBIの報告による2018年のアジア系に対するヘイトクライム件数は、全ての人種や民族に基づく嫌悪を理由としたヘイトクライム4,954件のうち171件であったことを鑑みると、新型コロナウイルス感染症流行とアジア系に対するヘイトクライムの増加に関連性がある可能性は高い。

こうしたアジア系のスケープゴート化ならびにアジア系へのヘイトクライム増加の原因の一つとして、Gover et al. (2020)はアメリカ社会におけるアジア系への othering (アザーリング, 他者化) を挙げている。Gover et al. によれば、othering とはその社会で支配的なグループが、どのグループが社会に帰属するか或いはしないかを決定するプロセスである。アメリカ社会におけるアジア系への othering の歴史は長く、1870年代には反中国運動、1900年代には反日本運動が、雇用の不安定やアジア系移民の増加に対する嫌悪感情を理由として勃発した。こうした動きに対してアメリカ政府はアジア系移民を保護するのではなく、1882年の中国人排斥法や1908年の紳士協定など、アジア系移民の排斥によって反アジア系感情に対応してきた。また、これらは第二次大戦中の日系人強制収容の布石になったとも言われている。さらに、1980年代から1990年代後半にかけての日米間貿易摩擦は、Vincent Chin 殺害事件などアジア系に対するヘイトクライムに結びついたと言われている(C・J・Kim, 1999; 竹沢, 1994 など)。こうしたアジア系排斥の背景には、先述のアジア系に対する他者化や、アジア系市民を「永遠の外国人」ないし nativity が欠落した集団とみなすディスコースの存在がある(Tawa et al., 2013 など)。昨今、新型コロナウイルス感染症の流行に付随して起こっている反アジア系感情や増加するヘイトクライムについても、こうしたディスコースとの関連から捉える必要がある。

本研究は2016年12月から2017年3月ならびに、新型コロナウイルス感染症流行の前年である2019年1月から3月にアメリカ(ベイエリア)にて収集したインタビューデータの分析を中心とし、アジア系への他者化の再生産や、現在見られるようなヘイトクライムへと繋がるディスコースが談話内にどのように表れているかを明らかにする。ディスコースは「生きたイデオロギー」として人種や民族といった集合的主体を構築し(Wodak and Reisigl, 2015)、また、個人の発言は多数の人々の「声」を内包する(Maybin, 2001)という観点から、個々人の談話を社会全体で共有される人種・民族的ディスコースを内包するものとして捉え、そうしたディスコースが現在見られるようなアジア系へのヘイトにどのように関連しているのかを明らかにすることが、本研究の目的である。下記の表1にインタビュー協力者の簡単なプロフィールを示す。インタビュー対象者は主に日系アメリカ人および在米日本人であり、日本語ないし英語を使用して半構造化インタビューを行った。「新〇世」とは日系アメリカ人のうち第二次大戦後にアメリカに移住した世代およびその子孫を指し、特に表記が無い場合は第二次大戦前に移住した旧世代およびその子孫を指す。

¹ NHK: <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210107/k10012802001000.html>

² CDC: https://covid.cdc.gov/covid-data-tracker/#cases_casesper100klast7days

表 1. インタビュー協力者のプロフィール

	世代 (日系米人・在米日本人)	言語的背景
Yoshiko	長期滞在者	日 L1 話者
Mao	新二世	英 L1 話者
Dani	四世	英 L1 話者
A (IR)	-	日 L1 話者

2. データ分析

2.1 他者化の主体を白人とする語り

本章では実際の談話データから、アジア系が置かれる社会的状況を示すディスコースを見てゆく。データ 1 では、Mao と A が知らない通行人から適当な中国語や日本語で話し掛けられるという経験について話している。29-31 行目の発話

で、Mao は“people”を主語として“people might try to talk to you in Chinese”と文を完結させた後、主語を“white people”に置き換えて文全体を言い直している。このことから、Mao がアジア系の人々に(英語ではなく)適当なアジア圏の言語で話しかける、民族的・言語的差異を無視して一括りに扱うといったアジア系に対する他者化の主体を、特に白人として捉えていることが分かる。一方、日系人や在米日本人である他のインタビューーからは、アジア系を含む他の人種・民族グループに属する人々からも“Where are you (really) from?”といった質問を投げかけられるという経験が語られている。後述の Yoshiko の語りからも明らかのように、アジア系を他者化するディスコースは様々な人種・民族グループによって再生産および共有されていると言える。

<データ 1>

27. M:	growing up here: in America where you're like a minority
28. A:	hm
29. M:	<u>people</u> might like(.)try to talk to you in Chinese
30.	I mean like () white () <u>white people</u> might try to talk
31.	to you in Chinese and it's like

2.2 語り手自身によるアジア系の他者化

データ 2 は、Yoshiko と A(筆者)が、Yoshiko が滞在するサンフランシスコではアジア人が一様に中国系として扱われるという傾向について話した直後の談話である。A の「他のアジア系民族が多い地域に住んでいることをどのように感じるか」という問いに対し、Yoshiko は「アメリカ人ばかりの中に自分達だけよりはちょっと安心感」(190-194 行目)と答えている。Yoshiko の言う「アメリカ人」にアジア系アメリカ人は包含されておらず、アジア系は「アメリカ人」とは異なるカテゴリーとして位置づけられている。このような位置づけはア

メリカ人を黒人と白人の関係性のみから捉え、アジア系やヒスパニックといった人種・民族カテゴリーを周縁化する black/white paradigm(J・Y・Kim, 1999 など)や、アジア系を“racial and ethnic other”(Alim, 2010)として他者化するディスコースに見られるものである。アジア人である Yoshiko 自身が、アジア系をアメリカ人とは異なる他者として位置づけるディスコースを内面化および再生産していることを表すデータであると言える。

<データ 2>

186.A:	ど どうですかね その(.)なんだろう ほ ん : :
187.	他民族 : 他の民族が多い(.)とか
188.Y:	ん : : :
189.A:	他のアジア系が多いってゆうの
190.Y:	どうでしょう なんかも たぶん[h <u>アメリカ人</u> h
191.A:	[うん
192.Y:	<u>ばかりの中に自分達[だけよりは</u>
193.A:	[ん :
194.Y:	ちょっと安心感 @@

2.3 他者化の経験・解釈の差異

データ 1 およびデータ 2 では、インタビューーはいずれも外見によって「アジア人」という扱いを受けること、また自己ないし他者によってそのように位置づけられることを前提としていた。しかし、データ 3 のインタビューーである Dani は、抜粋箇所外で自身の外見を“I look too white (for Japanese American)”と説明するように white-passing(白人とみなされる外見)であり、Dani の語りおよびアジア系に対する位置づけは他のインタビューーと大きく異なる。Dani は、“Chino”と呼びかけられて怒りを露わにした日系アメリカ人の友人に対し、“they don't care”(7 行目)、“they don't

know the difference they're gonna call you that" (9行目)と、友人の怒りに共感するよりもむしろ“Chino”と呼びかけた人物への理解を示すような語りを展開している。この“Chino”と呼びかけた人物のように、個々のアジア系グループの差異を無視し画一的なグループとして扱う人種差別的態度は、Alim(2010)でも指摘されているように現在もアメリカにおいて社会・文化的に共有されるディスコースと重なる。このことと Mao の談話を併せて考えると、アジア系を画一的なグループとみなし尚且つ他者として位置づけるディスコースはアメリカ社会において広く共有され、多くのアジア系の人々に経験されていることが分かる。また、同じ人種・民族グループの中でも、Dani とその友人のように同じ経験が異なる解釈をなされていることが分かった。

<データ 3>

- | | | |
|-----|----|---|
| 1. | D: | when I was in Europe with my Japanese American friend |
| 2. | A: | uh-huh |
| 3. | D: | someone called her: (.) like a Chinese |
| 4. | A: | uh-huh |
| 5. | D: | and she got <so> upset she's I am <Japanese American> and this like |
| 6. | A: | @@ |
| 7. | D: | they don't care @@ () |
| 8. | A: | @@ () yah yah yah |
| 9. | D: | they don't know the difference they're gonna call you that |
| 10. | A: | @ |
| 11. | D: | so: upset |

3. 考察

以上の分析を踏まえて、上記のデータに見られるようなアメリカ社会におけるアジア系関連のディスコースと、新型コロナウイルス感染症の流行に付随して露わになった反アジア系感情との関係について考察してゆく。データ 1 では“white people”によって他者化されるという経験、データ 2 からはインタビュー自身が内面化および再生産する「アジア人=非アメリカ人」というディスコース、データ 3 からはアジア系への他者化に対する日系アメリカ人間での態度の違いがうかがわれた。新型コロナウイルス感染症のアウトブレイクに伴い増加したと言われているアジア系へのヘイトスピーチには、「国へ帰れ」といったアジア人の nativity やアメリカ社会への帰属を否定するものや、アジア系の人々を一様に中国系とみなすなど民族的多様性を否定するものが多数報告されている³。これらは、Tawa et al (2013) や Alim(2010)で指摘されているようなアメリカ社会に歴史的に根差すアジア人排斥のディスコースに沿っているだけでなく、データに表れていたような「アジア系の人々に適当な中国語で話しかける」、「個々の民族的アイデンティティを無視してアジア系の人々を中国系とみなす」といった事象とも合致している。つまり、新型コロナウイルス感染症の流行以前から、アメリカに居住しないし在住するアジア系の人々は様々な形式で他者化を経験しており、アジア系を他者化するディスコースは多様な人種・民族的グループによって強化および再生産されていたと言える。筆者は 2020 年の拙稿(木場, 2020)において、メディアが性産業従事者や「外国人」といった人々を「一般人」とは切り離された他者集団として位置づけた上で新型コロナウイルス感染症の感染源ならびに感染経路として名指し、これによって新型コロナウイルス感染症そのものを「他者の病」とする物語を形成している点について指摘した。これと類似して、アメリカ社会においては歴史的に他者化されてきたアジア系の人々がウイルスの感染源・感染経路として名指され、同時に感染症そのものも「他者の病」として構築されていると言える。

こうした動向はいわゆるエイズ・パニックの渦中における「エイズ感染の物語」(西山, 2004)の形成プロセスとも類似している。「エイズ感染の物語」においては、性産業従事者や同性愛者、移民といった人々が感染源・感染経路として位置づけられ、ヘイトスピーチやヘイトクライムの矛先となった。エイズ・パニックにおいても「コロナ禍」においても、歴史的に他者化されてきた人々が「未知の病」と関連づけられ、「他者」としての位置づけが強化されている点が共通している。言い換えると、感染症そのものが「他者の病」として構築されるにあたって、特定の社会的グループに対する他者化が前提となっており、ヘイトスピーチ・ヘイトクライムは感染症の流行をきっかけとして生じたのではなく、元来社会に根差していたディスコースが強化されつつ露わになった結果である。また、そうしたディスコースはアジア系自身を含む様々な人種・民族グループによって再生産されていることがデータから明らかになった。

³ Stop AAPI hate report: <http://www.asianpacificpolicyandplanningcouncil.org/stop-aapi-hate-reports/>

4. 結論

本研究では、世代が異なる3名の日系アメリカ人および在米日本人の談話データを取り上げ、新型コロナウイルス感染症のアウトブレイク以前からアメリカ社会においてどのようなディスコースが共有され、それがアジア系の人々にどういった影響を与えてきた/いるのか、また、感染症の流行とともに増加したと言われているアジア系へのヘイトクライムとどのように結びついたのかを検証した。分析結果から、感染症流行以前からアジア系の人々が直面している反アジア系ディスコースと、感染症と関連してアジア系の人々に向けられているヘイトスピーチには明確な関連性が見られること、アジア系の人々が新型コロナウイルス感染症の「物語」におけるアクターとして位置づけられていることが分かった。さらに、そのようなディスコースはアジア系自身によっても内面化されているだけでなく、外見上の要因等によって経験や解釈のなされ方が異なることが示された。

トランスクリプト記号

:	直前の音の引き延ばし	(空白)	聞き取り不能	↑	上昇イントネーション
(.)	小休止	@	笑い	[オーバーラップ開始
h 発話 h	呼吸を伴う発話	<発話>	比較的ゆっくりとした発話		

参考文献

- Alim, H. S., Lee, J., & Carris, L. M. (2010). "Short Fried-Rice-Eating Chinese MCs" and "Good-Hair-Havin Uncle Tom Niggas": Performing Race and Ethnicity in Freestyle Rap Battles. *Journal of Linguistic Anthropology*, 20(1), 116-133.
- Kim, C. J. (1999). The Racial Triangulation of Asian Americans. *Politics & Society*, 27(1), 105-138.
- Kim, J. Y. (1999). Are Asians Black?: The Asian-American Civil Rights Agenda and the Contemporary Significance of the Black/White Paradigm. *The Yale Law Journal*, 108(8), 2385-2412.
- Gover, A. R., Harper, S. B., and Langton, L. (2020). "Anti-Asian Hate Crime During the COVID-19 Pandemic: Exploring the Reproduction of Inequality". *American Journal of Criminal Justice*.
- Jeung, R. (April 3, 2020). "Incidents of coronavirus discrimination march 26-April 1, 2020: a report for A3PCON and CAA." *Asian Pacific Policy and Planning Council*. https://www.asianpacificpolicyandplanningcouncil.org/wp-content/uploads/Stop_AAPIO_Hate_Weekly_Report_4_3_20.pdf
- 木場安莉沙 (2020). 新型コロナウイルス感染症をめぐるディスコースに見る病の他者化—エイズ感染の物語からコロナウイルス感染の物語へ— 大阪大学言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト 相互行為研究⑥—談話とダイバーシティ—, 39-48.
- Maybin, J. (2001). Language, Struggle and Voice: The Bakhtin/Volosinov Writings. In M. Wetherell, S. Taylor, & S. J. Yates, (eds.) *Discourse Theory and Practice: A Reader*. London: Sage, 64-71.
- 西山智則 (2004). エイズ感染の物語に感染しないために—疫病の政治学(2). 埼玉学園大学紀要 人間学部篇(4), 77-91.
- 竹沢泰子 (1994). 日系アメリカ人のエスニシティ—強制収容と補償運動による変遷 東京大学出版会
- Tawa, J., Suyemoto, K. L., & Tauriac, J. (2013). Triangulated Thread: A Model of Black and Asian Race Relations in a Context of White Dominance. In *AMERICAN MULTICULTURAL STUDIES: Diversity of Race, Ethnicity, Gender and Sexuality*, ed. by Pinder, S. O. pp. 229-247. SAGE Publications.
- Wodak, R. and Reisigl, M. (2015). "Discourse and Racism". *The handbook of discourse analysis*, 576-596.